

## 一七、想念帯——記録されている人生の全て

( ページ『己が己自身を裁く』参照 )

この世を終わった時に、地獄の入口で閻魔大王がいて、一人ずつ、「おまえ、こういう事をしたな」

「いや、そんな事してません」

「おまえ、そう言うなら、舌出してしろ」

つて、舌を抜く訳ですね。

——そうじゃないんですね。この仏教的に伝わった閻魔大王というのは、実は自分の心の中にある、心の中の想念帯の事を言うんですね。

人間には、一人一人心の中に、この想念帯というものがある。ここに自分がこの世で思った事・行った事を記録したものが、全部あるんですよ。毎日の一秒一秒の事が全部記録されている。一つとして漏らしていない。

自分がこの世を終わって、帰る時になったら、何も持っては帰れないんです。この

肉体でさえも、持っては帰れない。

持って帰られるのは、これだけなんです、想念帯だけ——。

この世を去った後、修養所みたいな処で先ず、この想念帯の中の、この世に生まれた時から死んだ瞬間まで全部見せられる訳です。

それは、ちゃんと映画のように声も姿も全部出て来ますよ。

そして、一つ一つ自分の思った事・行った事を全部、ザッと見せられる訳ですよ。人間というものは、みんな悪い事ばかりはしていませんよ。たまに善い事はしていますよね。要は、この善い事が何回ぐらいあったかということです。

この世的に説明すると、悪い行いは、黒色で書かれている。善い行いは、金色なんです。ですから、そこを読まなくても見ただけで分かりますね。金と黒のどちらが多いか直ぐ分かる訳ですよ。

そして、この場所で反省を誰もがしなければならぬ。

その中で、間違いがあったら、その行いを変えていく。悪い行いが正されたら、今度は赤い色で訂正される。書き換えられるようになっていく。

そして、最後に残ったものがどれくらいあるかということになる。

そしてそれに従<sup>したが</sup>って、其<sup>それぞれ</sup>々の行く場所が決まってくる。

——これは、この世的<sup>よてき</sup>に言えば、このようになってい<sup>ま</sup>るんですね。

閻魔大王がいて、決める訳じやないですね。閻魔大王は、実は自分の心の中にいるんですよ。自分の心は、自分で裁<sup>さ</sup>く——。

そして自分が、「あつ、私はこういう目的<sup>ちよくてき</sup>で出て来たんだけど、わたしは全然違う事をやっていた」と思い出す訳ですね。

これは、やり直<sup>なお</sup>しをしなかったら、帰るべき処に帰る事は出来ませんよ。——それがお化けですね。地獄界に行<sup>い</sup>ってしまう。(次の『心の病』へと続く)